

目的 近年、婦人の自立ということが、やかましくいわれているが、家族を従来からの核家族、拡大家族、世帯という分類の仕方では、真の婦人の自立は難しいと思はれる。

そこで、血縁、地縁、職業、宗教等に関係なく、その生き方に共感したものが集って、従来の家族の良さを生かしつゝ、自由に協力し助け合って行く協合家族をつくり、婦人が自立するために起る諸問題の解決をはかってみた。

方法 ボランティア労力銀行は「労力にインフレはない。労力を新しい“愛の通貨”にしましょう。労力銀行の利息は“友情”です」というキャッチフレーズを掲げ、①月2時間以上ボランティア活動をする②月一食分の会費を納めることを会員資格とし、ボランティア活動は何時間しても点数にならないが、会員同志の助け合いは一時間一点という新しい経済単位で、世代の違う婦人のライフサイクルの余暇を活用して、婦人が①職業一すじに生きる②職業と家庭を両立する③家庭一すじに生きるの三つの道を、自由に選べるようにはかって来た。時間を単位にする考え方は、婦人に新しい経済観と連帯感を育てつつある。

結果、満八年を迎えた現在、会員数三千六百名、二年前に全国網を達成、約四十五万時間のボランティア活動と延一万六千時間の助け合いをした結果、ボランティア活動は愛の心を、労力の借り貸しは、知恵の借り貸しとなって、会員同志の間に、いぎという時には協力し合える。時には単なる肉親以上の家族関係をもつことが出来るようになった。